



治水・防災

現在も、破堤時の被害の深刻度が高い状況にあることを踏まえ、諸対策を進めます。

破堤による被害の回避・軽減

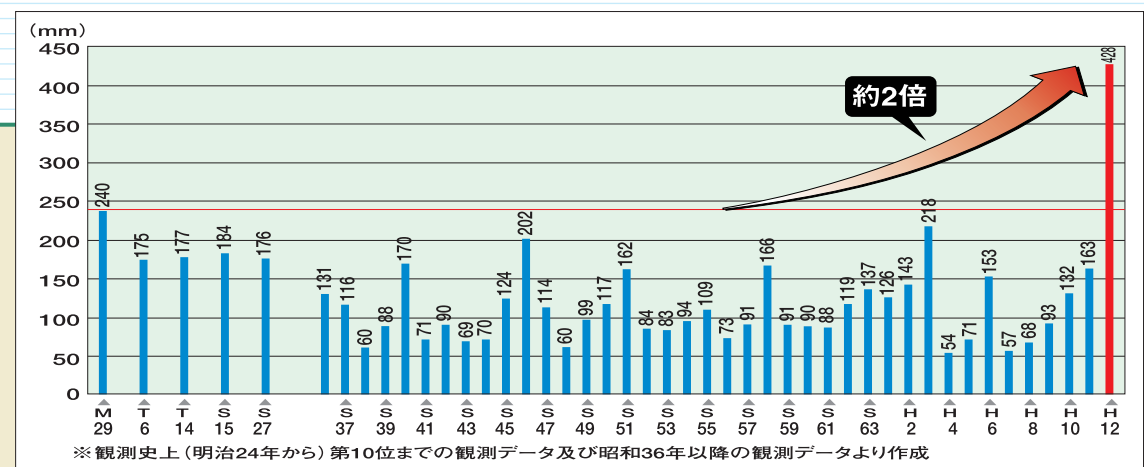
現状の課題

○これまでは、一定規模の大雨を目標に、洪水を早く下流に流せるように堤防等の整備を行ってきましたが、平成12年の東海豪雨のように想定以上の豪雨が起ると、土でできた堤防は、洪水に対して万全ではありません。



新川(名古屋市)の破堤による浸水(平成12年9月)

■過去の2倍近い降水量



名古屋地方気象台(日降水量)

破堤による被害の回避・軽減を目標とし、そのための施策を最優先で取り組みます

具体的な整備内容

実施項目

「水害に強い地域づくり協議会(仮称)」の設置……以下の項目等について検討・実施します。

自分で守る(情報伝達、避難体制の整備)

○河川情報表示板等を設置し、自治体や住民への情報提供と防災意識の啓発を行います。

■河川情報表示板



伊丹市下河原

○浸水実績のある区域において、水位や発生原因を、よりわかりやすく表示します。

■浸水実績表示



■川西市防災マップ



○現在公表している「浸水被害区域図」をもとに、浸水想定区域や浸水深を表示した看板等によりわかりやすく表示します。また、避難場所や避難経路などをわかりやすく示したハザードマップ等の作成・普及について自治体を支援します。

○洪水や高潮の危険性を住民にわかりやすく周知するとともに過去の災害の体験談を広く伝えること等により防災に対する意識の啓発を図ります。

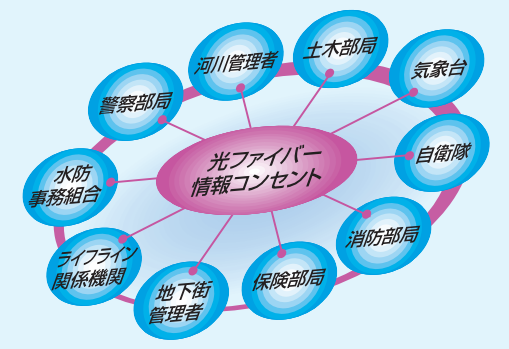
○インターネットや携帯電話、CATV等を活用し、住民やマスメディアに洪水情報を提供。また、地下空間の利用者、管理者への情報伝達体制の整備を行います。



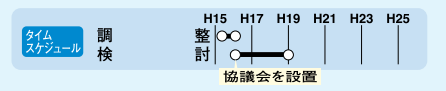
携帯電話による情報提供

○自治体等と共同で避難訓練を実施し、避難誘導等の体制を整備します。

○光ファイバー網の整備を継続実施し、自治体、水防団、マスメディアとの相互接続により、情報伝達体制の基盤整備を行います。



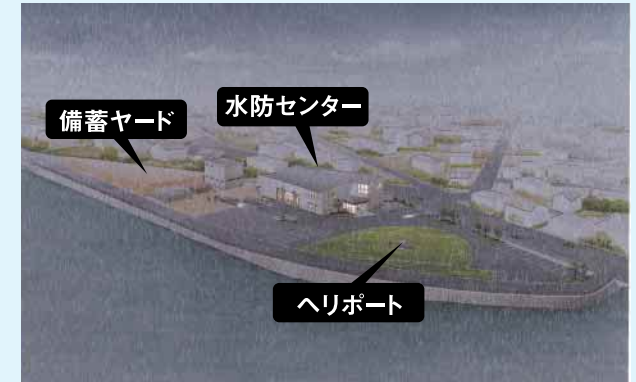
治水 2 流域全体



みんなで守る(水防活動、河川管理施設の運用)

水防活動や物資輸送等の拠点となる、ヘリポートを備えた防災ステーションの整備を継続実施します。

■防災ステーション(イメージ図)



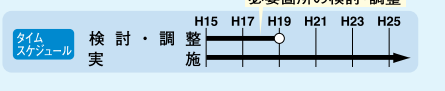
○水防団との連携を一層強化するとともに、連絡会において、課題を踏まえた支援の方策等について検討します。

○防災機関との連携を強化し、水防警報・洪水予報を水防管理者や自治体、住民へ発表し、周知します。

○災害対策車両等の機動性確保のため、堤防への搬入路等を整備します。

○排水機場運用の検討を行います。

治水 3 流域全体



地域で守る(街づくり、地域整備)

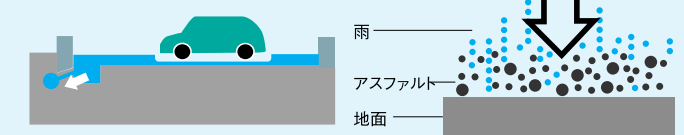
○氾濫原における土地利用の規制・誘導方策について自治体の検討を支援します。

○水道・電気等のライフライン施設など公共施設の耐水化について各管理者を支援します。

○流域内の保水機能保全対策(調整池、貯留施設、浸透施設)について検討を支援します。

■校庭・駐車場・公園に水を貯める
雨を駐車場などに貯め、少しずつ川に流れるようにします。

■雨水浸透施設を作る
透水性舗装

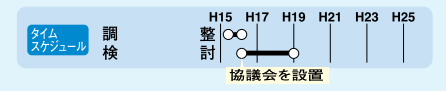


■ため池の貯水能力を高める
ため池を大きくしたり、深くして水をたくさん貯められるようにします。



○河川への流出量を抑制するため、遊水地等の貯留機能を強化し、公共施設における地下貯留施設の設置等について検討を支援します。

治水 4 流域全体



！ あなたはどう思いますか。別紙の「ご意見用紙」にご意見をご記入ください。